

研究区分	教員特別研究推進 教育推進
------	---------------

研究テーマ	遠隔指導における効果的・効率的な病院実務実習実施方法の構築				
研究組織	代表者	所属・職名	薬学部・教授	氏名	賀川 義之
	研究分担者	所属・職名	薬学部・教授	氏名	伊藤 邦彦
		所属・職名	薬学部・教授	氏名	山田 浩
		所属・職名	薬学部・准教授	氏名	宮寄 靖則
		所属・職名	薬学部・准教授	氏名	井上 和幸
		所属・職名	薬学部・講師	氏名	辻 大樹
		所属・職名	薬学部・講師	氏名	平井 啓太
		所属・職名	薬学部・講師	氏名	古島 大資
		所属・職名	薬学部・講師	氏名	内野 智信
		所属・職名	薬学部・講師	氏名	大澤 隆志
		所属・職名	薬学部・助教	氏名	谷澤 康玄
発表者	所属・職名	薬学部・教授	氏名	賀川 義之	

講演題目
遠隔指導における効果的・効率的な病院実務実習実施方法の構築
研究の目的、成果及び今後の展望
<p>【目的】新型コロナウイルス感染症蔓延の影響で、臨地での実習が一部困難となっており、遠隔実習の重要性が増しつつある。そこで令和3年度は、令和2年度に導入した遠隔病院実務実習に対する実習生および指導薬剤師の評価を踏まえて、より効果的・効率的な病院実務実習を遂行することを目的に、遠隔実習内容の再構成を行った。特に、病棟実習では実際に入院している患者データに基づき、症例背景を入手した上で、教員を介して遠隔で実習生と面談する機会を提供し、より臨場感のある実務実習を実施したので、その成果を以下に示す。</p> <p>【成果】病棟実習では、各実習生が担当患者への指導を遠隔で教員を介して行った。まず、教員がWeb実務実習指導システムを通じて遠隔で実習生に患者情報を送信し、それに基づいて実習生がプロブレムリストを作成、薬物治療計画及びモニタリングリストを立案した。遠隔会議システム ZOOM®を用いて、実習生と教員が実際の患者への問いかけ、聞き取りの方法および内容について討議した。この際、患者の性格や嗜好を実習生に伝えることにより、実際に即した医療面接の技法の修得に努めた。次いで、実習生の立案した指導内容に沿って教員が実際に患者指導や医師への提案を行い、収集した患者情報や医師の見解を ZOOM®を介し実習生と共有し、薬物治療の評価や今後の治療計画について討議した。実習生は Web 実習指導システムを通じて各症例の SOAP 記録を教員に提出した。この遠隔病棟実習により、実習生が入院中の患者の容態や性格に沿った薬物治療計画をリアルタイムで作成し、その計画が患者や医師にどの程度受け入れられるかをフィードバックすることができた。患者への服薬指導に加えて、処方箋調剤時（内服薬、外用薬及び注射薬）の疑義照会、医薬品情報室での同種同効薬一覧表の作成、患者向けの医薬品説明文書の作成についても ZOOM®を活用して遠隔での指導を行った。病院実務実習終了後に実習生からのフィードバックを得たが、満足度は高かった。</p> <p>【今後の展望】新型コロナウイルス感染症蔓延下での代替措置として遠隔実務実習を行ったが、今後は遠隔での現場と同様の教育効果が得られるものは、遠隔実習を積極的に取り入れて行きたい。</p>